

第三十六号の八様式（第六条関係）（A4）

定期検査報告書
(防火設備)

(第一面)

報告者は所有者(所有者と管理者が異なる場合は管理者)とする。(【2. 管理者】と同じになる)

建築基準法第12条第3項の規定により、定期検査の結果を報告します。この報告書に記載の事項は事実に相違ありません。

特定行政庁 津山市長 様

令和〇〇年〇月〇日

報告者氏名 ● 株式会社〇〇
代表取締役 〇〇 〇〇

印

検査者氏名 〇〇 〇〇 ●

印

【1. 所有者】

【イ. 氏名のフリガナ】 カブシキガイシャ〇〇 ダイョウトリシヤク 〇〇 〇〇
 【ロ. 氏名】 株式会社〇〇 代表取締役 〇〇 〇〇
 【ハ. 郵便番号】 〇〇〇-〇〇〇〇
 【ニ. 住所】 岡山県〇〇市〇〇町〇番〇号
 【ホ. 電話番号】 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

第二面【4. 防火設備の検査者】の代表となる検査員を記入する。

【2. 管理者】

【イ. 氏名のフリガナ】 カブシキガイシャ〇〇サービス ダイョウトリシヤク 〇〇 〇〇
 【ロ. 氏名】 株式会社〇〇サービス 代表取締役 〇〇 〇〇
 【ハ. 郵便番号】 〇〇〇-〇〇〇〇
 【ニ. 住所】 岡山県〇〇市〇〇町〇番〇号
 【ホ. 電話番号】 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

所有者と管理者が同一の場合、管理者には「所有者と同じ」と記入してもよい。

【3. 報告対象建築物】

【イ. 所在地】 岡山県〇〇市〇〇町〇番〇号 ●
 【ロ. 名称のフリガナ】 〇〇〇ホテル
 【ハ. 名称】 〇〇〇ホテル
 【ニ. 用途】 ホテル・飲食店

住居表示で記入すること。

【4. 検査による指摘の概要】

■ 要是正の指摘あり (□既存不適格) □ 指摘なし

要是正の指摘が1つでもある場合は☑しない。

※受付欄	※特記欄	※整理番号欄
年 月 日		
第 号		
係員印		

防火設備の状況等

【1. 建築物の概要】

【イ. 階数】 地上 7 階 地下 2 階
【ロ. 建築面積】 ○○ m²
【ハ. 延べ面積】 ○○ m²

直近の確認済証・検査済証について記入する。

【2. 確認済証交付年月日等】

【イ. 確認済証交付年月日】 令和 ○○年 ○月 ○日 第○○○○○号
【ロ. 確認済証交付者】 ■建築主事 □指定確認検査機関 ()
【ハ. 検査済証交付年月日】 令和 ○○年 ○月 ○日 第○○○○○号
【ニ. 検査済証交付者】 ■建築主事 □指定確認検査機関 ()

2日以上検査日数を要した時は、最終日を記入する。

【3. 検査日等】

【イ. 今回の検査】 令和○○年 ○月 ○日実施
【ロ. 前回の検査】 ■実施 (令和○○年 ○月 ○日報告) □未実施
【ハ. 前回の検査に関する書類の写し】 ■有 □無

報告が初めてではない場合は、「実施」に☑し、前回の報告日を記入する。

【4. 防火設備の検査者】

(代表となる検査者)

【イ. 資格】 (一級) 建築士 (国土交通大臣) 登録第 ○○○○○ 号
防火設備検査員 第 ○○○○○ 号
【ロ. 氏名のフリガナ】 ○○ ○○
【ハ. 氏名】 ○○ ○○
【ニ. 勤務先】 株式会社○○一級建築士事務所 (岡山県知事) 知事登録第○○○○○ 号
(一級) 建築士事務所
【ホ. 郵便番号】 ○○○-○○○○
【ヘ. 所在地】 岡山県○○市○○町○番○号
【ト. 電話番号】 ○○○-○○○-○○○○

(その他の検査者)

【イ. 資格】 () 建築士 () 登録第 △△△△△ 号
防火設備検査員 第 △△△△△ 号
【ロ. 氏名のフリガナ】 △△ △△
【ハ. 氏名】 △△ △△
【ニ. 勤務先】 △△検査会社 () 建築士事務所 () 知事登録第 号
【ホ. 郵便番号】 △△△-△△△△
【ヘ. 所在地】 岡山県△△市△△町△番△号
【ト. 電話番号】 △△△-△△△△-△△△△

【5. 防火設備の概要】

【イ. 避難安全検証法等の適用】
□区画避難安全検証法 (階)
□階避難安全検証法 (階)
□全館避難安全検証法
□その他 ()
【ロ. 防火設備】 ■防火扉 (7 枚) ■防火シャッター (36 枚)
■耐火クロススクリーン (16 枚) □ドレンチ
□その他 (台)

検査対象である随時閉鎖式又は随時作動式の防火設備についてのみ記入する。

随時閉鎖式防火扉の枚数を記入する(常時閉鎖式防火扉は含めない)。両開き扉及び親子扉の場合は、両方セットで1枚とカウントする。

【6. 防火設備の検査の状況】

【イ. 指摘の内容】 ■要是正の指摘あり (□既存不適格) □指摘なし
【ロ. 指摘の概要】 防火扉 (堅穴区画)、防火シャッター (堅穴区画)
【ハ. 改善予定の有無】 ■有 (平成○○年○○月に改善予定) □無

「要是正」が一つでもあれば「要是正」のみ☑し、「既存不適格」には☑しない。

「要是正」が一つもなく「既存不適格」のみの場合は「要是正」と「既存不適格」の両方に☑する。

【7. 防火設備の不具合の発生状況】

【イ. 不具合】 □有 ■無
【ロ. 不具合記録】 □有 □無
【ハ. 改善の状況】 □実施済 □改善予定

要是正がある場合のみ記入する。指摘の内容を書く必要はない。

「要是正」がある場合のみ、要是正の指摘があった防火設備の種類及び当該防火設備の区画の種類(堅穴区画、面積区画、異種用途区画、その他の区画のうち該当するもの)を記載する。

「要是正」がある場合のみ、☑する。改善予定「有」の場合は検査結果表の改善(予定)年月日のうち一番時期が早いものを記入する。

【8. 備考】

【イ. 不具合】の無に☑した場合は【ロ. 不具合の記録】及び【ハ. 改善の状況】欄は☑しない。

防火設備に係る不具合の状況

(第三面)

前回検査時以降、防火設備に係る不具合を把握していない場合は第三面を省略することができる。(第三面を添付する必要はない。)

不具合を把握した年月	不具合の概要	考えられる原因	改善(予定)年月	改善措置の概要等

不具合とは、前回の検査時以降に他の検査(消防法令による検査や自主検査等)で把握した防火設備の不作動等をいう。

前回の検査時以降に把握した防火設備に係る不具合のうち、今回検査で指摘される以外のものがある場合は、第二面の【7. 防火設備の不具合の発生状況】の【イ. 不具合】を有に☑して、第三面にその内容を記入する。

初回の報告や、不具合がない場合は、第二面の【7. 防火設備の不具合の発生状況】の【イ. 不具合】を無に☑する。